

2024 年度 第 1 回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会議事録

〔日時〕2024 年 8 月 7 日(水)18:30～20:00

〔場所〕町田市庁舎 3-1会議室

〔出席委員〕※敬称略

長田、金、長谷川、松崎、井上、岡根、花岡、齋藤、渡辺(綱)、叶内、安達、小澤、渡邊(和)、西澤
－14 名

〔事務局〕

いきいき生活部長 佐藤、いきいき総務課長 田野倉、高齢者支援課長 早出、高齢者支援課高齢者総合相談
担当課長 伊奈、介護保険課長 江藤、介護保険課担当課長 水谷、介護保険課担当課長 古川、保険年金課長
武藤、江成、諏訪、金子、和賀井、村上、渡邊、箕輪、松村、橋本、皆川、斉藤、氏家、大島、高城、松田、星野、井
上、武田、天野、島田

－28 名

〔会議の公開・非公開の別〕公開

〔傍聴人〕3 名

〔次第〕

1 開会挨拶

2 議題

(1)いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度計画進捗状況及び 3 年間の総評価について【資料 1】

(2)いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度総事業費等について【資料 2】

3 報告

(1)令和6年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金
(介護保険インセンティブ交付金)の評価結果について【資料 3】

(2)介護人材にかかる需給推計と介護人材確保に向けた取組みについて【資料 4】

4 事務局より

5 閉会

〔配付資料〕

【資料 1】「町田市いきいき長寿プラン 21-23」の 2023 年度進捗状況及び 3 年間の総評価について

【資料 2】「町田市いきいき長寿プラン 21-23」における 2023 年度の介護保険事業の総事業費等について

【資料 3】令和6年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金
(介護保険インセンティブ交付金)の評価結果について

【資料 4】介護人材にかかる需給推計と介護人材確保に向けた取組みについて

〔当日配付資料〕

諮問書(写し)

〔内容〕

1 開会挨拶

事務局

皆様、本日はお忙しいところ 2024 年度第 1 回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会にお集まりいただきありがとうございます。時間になりましたので始めさせていただきます。私は事務局を担当しています、いきいき総務課の大島と申します。しばらくの間進行を務めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。はじめに、いきいき生活部長の佐藤より開会に先立ちまして挨拶を申し上げます。

事務局

本日は、ご多用の中、第1回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、審議会委員の皆様には、日頃から、市の高齢者施策や介護保険行政にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

今年度よりいきいき生活部長に着任しました佐藤と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。さて、昨年度は、全6回の審議会を経て、「町田市いきいき長寿プラン 24-26」の策定を無事完了いたしました。これも、ご多忙の中、幾度もお集まりいただき、策定に向けて、闊達なご議論を重ねてくださいました委員の皆様のお力添えあつてのことです。誠にありがとうございました。

現在町田市では、このプランに基づき、さまざまな取組みを進めているところでございます。引き続き、委員の皆様におかれましては、本プランの推進にあたり、ご協力を賜れますようお願い申し上げます。本日の審議会につきましては、昨年度までのプランである「町田市いきいき長寿プラン 21-23」の総評価や事業費の実績についてのご報告などを予定しております。

委員の皆様には、限られた時間の中ではございますが、忌憚のないご意見をたまわり、闊達なご議論を重ねていただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局

次に、今年度より本審議会の委員に入れ替わりがございましたため、ご挨拶をいただきます。

<新任委員の長谷川委員及び安達委員よりご挨拶があった>

事務局

それでは、審議会の開催に先立ちまして、本審議会への諮問を行わせていただきます。本日は町田市長の石阪丈一に代わりまして、いきいき生活部長の佐藤より諮問書をお渡しさせていただきます。長田会長におかれましてはご起立くださいますようお願いいたします。

<いきいき生活部長より会長へ諮問が行われた>

事務局

ありがとうございました。長田会長はご着席をお願いします。委員の皆様には諮問書の写しを机上配布させていただいております。

※本日の流れの確認や資料確認等の事務連絡後、進行を長田会長へ引継

2 議題

(1)いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度計画進捗状況及び 3 年間の総評価について

長田会長 あらためまして、町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会の会長を務めさせていただいています長田と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の次第に沿いまして進めてまいります。でははじめに議題(1)いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度計画進捗状況及び 3 年間の総評価について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは議題(1)いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度計画進捗状況及び 3 年間の総評価について、いきいき総務課の田野倉よりご説明します。

資料1「町田市いきいき長寿プラン 21-23」の 2023 年度進捗状況及び 3 年間の総評価についてをお手元にご用意ください。

本議題につきましては、昨年の 11 月 5 日の審議会において、2023 年 10 月時点での見込み値でご報告をさせていただいておりますが、2023 年度の実績が確定しましたのでご報告するものです。本日は、昨年ご報告した見込み値から変更があった部分を中心にご説明いたします。

それでは、資料 1 の 1 ページをご覧ください。1 ページには 2023 年度における取組みごとの進捗状況を一覧で掲載しております。本プランの進捗状況は「◎(計画以上に進んでいる)」、「○(おおむね計画どおり進んでいる)」、「△(計画どおり進んでいない)」の三段階で評価しております。詳しい評価基準につきましてはページ最下部の凡例をご覧ください。2023 年度の進捗状況評価結果といたしましては、「◎(計画以上に進んでいる)」が全取組の 36.0%、「○(計画どおり進んでいる)」が全取組の 36.0%となっており、72.0%が計画以上、または概ね計画どおりに進捗いたしました。このことから、2022 年度に引き続き、2023 年度は概ね順調に進捗したと認識しております。一方、「△(計画どおり進んでいない)」は全取組の 28.0%となりました。計画通り進んでいない取組といたしましては、取組の性質上、新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい項目が多く含まれており、5 類に移行後、コロナ禍前までの水準に達さなかったことが主な原因と考えております。

2 ページをご覧ください。ここから 20 ページまでは、各取組みの進捗状況と 3 年間の総括につきまして個別に記載をしております。本日は昨年ご報告した見込み値から変更があった部分を中心にご説明させていただきます。

3 ページをご覧ください。3 ページ下段の「町田市シルバー人材センターによる就労機会提供の支援」について、見込み値における評価を「○」としておりましたが、実績値から評価は「◎」となりました。町内会・自治会に対して、シルバー人材センターの会員募集のチラシ掲示を依頼するなど、シルバー人材センターの広報活動を支援したほか、年始に「こころいきいきつながろう シルバー展 2024」をシルバー人材センターと共催し、同センターの広報や入会相談などの取り組みに関して支援を行った結果、実績が目標値の 110%を上回りました。

8ページをご覧ください。8ページ下段の「自立支援・配食ネットワークの実施」について、見込み値における評価を「○」としておりましたが、実績値から評価は「△」となりました。65歳以上の一人暮らしまたは高齢者世帯の方で要介護1～5の認定を受けている方に、見守りを兼ねた配食サービスを提供しましたが、施設入所や入院等により、利用を終了する方が増加したため、利用者数は減少し、実績が目標値を下回りました。

15ページをご覧ください。15ページ下段の「在宅生活を支える地域密着型サービスの充実」について、見込み値における評価を「○」としておりましたが、実績から評価は「△」となりました。看護小規模多機能型居宅介護について、1 施設からの応募があり、2023 年 11 月に選定しましたが、2024 年 2 月に事業者から事業実施取下げ書の提出があり、本計画は白紙となりました。また、定期巡回・随時対応型訪問介護看護については、応募がありませんでした。地域密着サービスの新規整備に至らなかったことから、進捗評価を「△」としました。

18ページをご覧ください。18ページ上段の「介護保険サービスの適正化事業の推進」について、見込み値における評価を「◎」としておりましたが、実績値から評価は「○」となりました。居宅介護支援事業所及び介護支援専門員の協力を得て、ケアマネジメント勉強会を実施した結果、「ケアマネジメント勉強会実施事業所数」が 64 事業所となり、目標値を上回りましたが、目標の 110%以上とらなかったことから、進捗評価を「○」としました。

18ページ下段の「認定調査員への支援」をご覧ください。「認定調査員への支援」について、見込み値における評価を「○」としておりましたが、実績値から評価は「△」となりました。参加者の業務調整や移動時間に伴う負担を軽減するため、2023 年度では研修開催回数を減らし、その代わりに研修内容の充実を図りました。その結果、参加者から好評価を得ることができましたが、研修回数が目標値を下回りました。

21ページをご覧ください。こちらのページでは、2021 年度から 2023 年度の各年度の進捗評価を基に、「町田市いきいき長寿プラン 21-23」3年間の総評価を記載しております。ページの上段〈総評価の方法〉をご覧ください。計画3年間を通しての総評価の方法を記載しております。

まずは①取組みの進捗を計る指標が「累計指標」の場合でございます。この場合はプラン最終年度である 2023 年度の評価を総評価としております。累計指標の例といたしましては「町トレ」の自主グループ数のような、年々グループ数を増やしていくような目標を立てている指標が該当いたします。

次に②取組みの進捗を計る指標が「累計指標以外」の場合でございます。この場合は各年度の評価の比率が多いものを最終評価としております。例えば 2021 年度が「○」、2022 年度が「◎」、2023 年度が「○」の場合は総評価は「○」となります。なお、各年度の評価が全て異なる場合は中間を取り、総評価は「○」と評価しております。

続きましてページ中央の大きな表「1 主な取組みの進捗評価結果一覧」をご覧ください。こちらは主な取組ごとの評価を記載した表となっております。表の一番右側に 2021 年度評価、その左に 2022 年度評価、その左に 2023 年度評価、そのさらに左に計画期間3年間を通じた総評価を記載しております。

続きましてページ下段の小さな表「2基本目標・基本施策別 主な取組の進捗評価」をご覧ください。こちらには、計画3年間を通じた総評価を基本目標・基本施策ごとに、割合で示しております。なお、評価及び割合の数値が色塗りされている部分は、昨年度の見込み値から変更があった項目になります。

「町田市いきいき長寿プラン 21-23」の3年間通じた総評価といたしましては、「◎(計画以上に進んでいる)」が全取組の 30.0%、「○(計画どおり進んでいる)」が全取組の 52.0%となっており、合計 82.0%の取組みが計画以上、または概ね計画どおりに進捗いたしました。このことから、「町田市いきいき長寿プラン 21-23」は3年間を通じて概ね順調に進捗したと認識しております。

一方、「△(計画どおり進んでいない)」は全取組の 18.0%となりました。冒頭にもご説明いたしましたが、計画通り進まなかった取組の中には、取組の性質上、新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい項目が含まれており、計画期間を通じて新型コロナウイルス感染症の影響が見られたと認識しております。

「いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度計画進捗状況及び 3 年間の総評価について」に係る説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

長田会長

ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明を受け、議題1に質疑のある委員は挙手をお願いします。

齋藤委員

ケアマネジャー連絡会の齋藤です。今説明はありませんでしたが、6 ページの「緊急時の地域連携機能の強化」の「介護保険事業所等との緊急時の連携強化」について、情報伝達訓練の参加が4割というのが、多いか少ないかというのはやっぱり検討の余地があるのではないかと感じています。石川の災害があったということからも、もっと危機感を持って取り組んだ方がいいのではないかと私は考えますし、情報伝達だけでいいのかなど、「介護保険事業所等との緊急時の連携強化」ではもうちょっと検討の余地があるのではないかと考えております。その辺をご説明していただけるとありがたいです。

事務局

いきいき総務課の田野倉からお答えさせていただきます。ご質問頂きました点について、「緊急時の地域連携機能の強化」というのは、想定されないような気象の変化が起きている状況の中で、非常に大切なものだと思っております。頂きましたご意見は、この情報伝達訓練につきまして、参加事業者が約 40%と少ないところで、評価が「○」というのは、どちらかというと、もう少し頑張った方がいいのではないかとご意見と認識しております。この情報伝達訓練の参加事業者数につきましては、確かに 2023 年度は 43%でした。2022 年度は 56%の事業者にご参加いただき、2021 年度は 70%の事業者にご参加していただいております。この原因につきまして、一つは新型コロナウイルス感染症の影響があったことや、2023 年度につきましては、ちょうど開催した日の前日に大雪が降ったということがありまして、事業所の皆様がお忙しかった状況にあったと分析をしております。しかし、そのような状況下でも、この情報伝達訓練には多くの事業所にご参加いただくことが、大切であると認識しております。その実施方法につきまして、最初に周知をしすぎてしまうと訓練の意味合いが薄れてしまう部分があると思いますので、2024 年度は工夫をしながら、ご意見を元に取り組んでまいりたいと思います。

長田会長
齋藤委員

ありがとうございました。貴重なご意見でありました。いかがでしょうか。

私たちもやっていかなければならないところなので、協力して実施していければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

長田会長
小澤委員

ありがとうございました。よろしゅうございますか。他にいかがでしょうか。

老人クラブ連合会の小澤です。この評価の一番最初が老人クラブについてでありまして、今回も「△」ということです。実は昨年度、老人クラブ連合会に新しく1クラブ増えましたが、今年度の頭に脱退するところがありました。昨年度加入されたクラブというのは、私どもの方から積極的に加入促進をしたわけではなくて、周りをみていて、これは入るべきだと思って入られました。コロナの影響というところもありますが、組織を継続するには役員が必要になります。役員の仕事は、高齢に伴ってだんだん大変になるということがありますので、行政の皆さんと一緒に、いかに我々らしい活動の範囲で老人クラブの活動を維持していかないと、大変なことになるのかなど。一例を申し上げますと、私の老人クラブでは、公園の清掃や花壇づくりをしていますが、この公園の管理が今年度から市から委託され別のところに移りました。その団体登録はオンラインで行うことになっており、なんとか自分のパソコンでしていますが、なかなか大変です。確かにそのような時代ではあります。そのような手続きは、できれば高齢者向きのものがないと、「じゃあやってられないよ」となりかねないので、ここはそういう実状を知っていただきたいと思います。

もう一点、私が関わっている点についてですが、8 ページの移動支援の推進です。私たちも社会福祉協議会や地区協議会と一緒に買い物支援を進めていますが、他のところでも進んでいるということで、「◎」をいただきました。せっかくですので、ご報告をさせていただきますと思います。週一回水曜日、ショッピングセンターへバスを走らせており、年末年始の介護福祉事業所がお休みの時以外は実施しているということで、2 年半で 116 回を数えました。このような暑い中で、高齢者が一人で歩いて買い物に行くというのは大変ですし、高齢になって家族から運転はやめなさいと言われている人もご参加いただいています。非常にいい取組みなので、高齢者支援センターなどと一緒に、今後も広げていきたいと考えています。老人クラブの活動というのは、自分たちの楽しみだけではなく、この様な活動もやっているということで、老人クラブの活動を活発にできればと考えております。

長田会長
事務局

大変貴重なご意見をありがとうございます。市の方からいかがでしょうか。

高齢者支援課の早出と申します。貴重なご意見をありがとうございます。また、状況のご報告もありがとうございます。まず、老人クラブですけれども、各年度 2 クラブを目標としており、結果として 3 ヶ年とも達成出来ませんでした。2023 年度は 1 クラブ立ち上がったという状況でございます。この計画の他の取組みにも関連するところですが、高齢者の方のいろいろな活動の形として、町トレを始めとした自主グループ活動など、高齢者の社会参加の形が多様化しているというような状況が背景にあると考えている一方で、老人クラブで行っている社会奉仕活動や生きがいづくりなどといった活動を目的とした団体は非常に重要なグループであると認識しております。資料にも記載がありますが、老人クラブ連合会主催の会計研修会の方で、市の方で事務のご説明をするなど、クラブの事務的

な対応がスムーズに進むよう取組みを行っているところでございます。事務の簡素化を含めて、老人クラブ連合会の皆様とも認識を合わせながら老人クラブの活動がさらに盛んになるような取組みを進めていきたいと考えています。

もう一点、移動支援についてですが、結果として目標値を上回ることができました。高齢者の方の生活上のお困りごとは様々ですが、その中で大きな要素として移動の問題がございます。この問題に対して、全てを行政が行うことはできませんが、地域の方の支え合いによって、この取組みが進んでいくような形の支援を引き続き行っていきたいと考えております。今回新たに相原地区で 2 か所、移動支援が始まりましたが、老人クラブが中心となっているところもございますので、生活支援を行っている団体を含めて支援してまいりたいと考えております。

長田会長

ありがとうございます。よろしゅうございますか。今後とも連携を益々深めていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。

齋藤委員

8 ページの「生活支援サービスの提供」の「自立支援・配食ネットワークの実施」のところですが、ケアマネジャーの集まる会議において、デイサービスを利用している方は、配食サービスを利用できないとの説明がありました。一人暮らしの認知症高齢者にはご飯を作ることができない方も多くいます。デイサービスで食事を摂っているから大丈夫だろうという発想かと思いますが、一食でいいのかというところがあるかと思います。また、元々、配食サービスは低栄養防止というところから始まったと記憶していますが、現在は安否確認の側面が優先というようにも説明がありました。一人暮らしの方の生活をどう支えるかということを考えていくうえで、配食サービスは有効的な事業であり、もう少し窓口を広くして欲しいというのが、私の希望です。

もう一点、配食サービスを行っている事業者の継続が厳しい点です。物価高騰の影響もありますが、事業者が撤退している事実があるのかなと思います。食事というのは、食べられればいいというものではなく、美味しく食べたいというところがありますので、油で揚げた食材が多くなってしまうと、高齢者としては食べられないという声を聴きます。食事の質というところも考えていただけるとありがたいと思います。以上です。

長田会長

食事の質と回数というところを含めて検討いただきたいというところかと思います。市の方からいかがでしょうか。

事務局

高齢者総合相談担当の伊奈と申します。ご意見をありがとうございました。ご意見があったとおり、ケアマネジャーの皆様がお集まりの場において、見守りということを重点的にというご説明をさせていただきました。一方で、低栄養防止、バランスの取れた食事の提供という側面もございます。頂いたご意見を参考にしていきたいと思います。

また、事業者の件につきましても、撤退しているところもあるかと思います。食事のメニューやサービスなどについて、事業者の方とも意見交換を行っていければと考えております。

長田会長

ありがとうございました。よろしゅうございますか。それでは、時間も限られていますので、ここで一度質疑を切りまして、また最後に時間があればお願いします。

次の議題(2)いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度総事業費等について事務局からご説明をお願いします。

(2)いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度総事業費等について

事務局

介護保険課長の江藤です。議題(2)「いきいき長寿プラン 21-23 における 2023 年度総事業費等について」ご報告します。資料2「町田市いきいき長寿プラン 21-23」における 2023 年度の介護保険事業の総事業費等について」をご覧ください。

項番1「介護保険情報」の左の表「(1)3か年比較」は、各年度の10月1日時点の要介護認定者数、介護サービス受給者数等に関する 2021 年度から 2023 年度までの実績及び 2022 年度と 2023 年度の増減比較です。2023 年度につきましては、総人口は、43 万 685 人で、2022 年度よりも 468 人減少しております。第1号被保険者は、11 万 6,770 人で、2022 年度よりも 85 人増加しております。高齢化率につきましては、27.24%で、2022 年度よりも 0.05 ポイント増加しております。総人口が減少しているものの、高齢者の人口が増加していることから、高齢化率が増加しているという状況となっております。

次に認定者数ですが、要支援者数とありますのは、要支援 1 と 2 の合計、同じく要介護者数とありますのは、要介護 1～5 の合計人数になります。要支援・要介護ともに、2022 年度よりも、要支援は 511 人、要介護は 471 人、合計で 982 人増加しており、高齢者人口の増加数よりも認定者数が大きく増えている状況となっております。これは、町田市の特徴的な動きとして、65 歳以上 74 歳未満の高齢者である前期高齢者の減少が続いている一方で、75 歳以上の後期高齢者人口が大きく増加しているためです。直近の数値では、2022 年と 2023 年で比較しますと、前期高齢者人口が 2,354 人減少していますが、その一方で、75 歳以上の後期高齢者の人口が、2,459 人と大きな増加を見せています。前期高齢者・後期高齢者の別で認定率を確認すると、後期高齢者の認定率は、直近で 31.5%となっています。一方の前期高齢者の認定率は 4.8%であり、後期高齢者の介護リスクが高い状況です。その結果、高齢者人口の増加数よりも要介護認定者数の増加数が多いという状況が発生しています。

次に、表の中段あたりをご覧ください。介護サービス受給者数の推移を、要支援者と要介護者別にそれぞれ示しております。「居宅」とありますのは訪問介護などの居宅サービス利用者数を、「地域密着」とありますのは認知症対応型デイ等の地域密着型サービスの利用者数を、「施設」とありますのは特養等の介護保険施設の施設サービスの利用者数を表しています。2023 年度の利用者数は、居宅サービス利用者は、1 万 4,980 人で、2022 年度よりも 744 人増となっております。地域密着型サービス利用者は、2,511 人で、2022 年度よりも 11 人増となっております。施設サービス利用者は、合計 2,913 人で、2022 年度よりも 21 人増となっております。療養型とありますのは、介護療養型医療施設を表しておりますが、こちらは 17 人減少しています。これは、2023 年度末で介護療

養型医療施設が廃止されたことから、介護医療院への転換が進んだためであり、その結果、療養型の利用者が減少し、介護医療院の利用者が増加しています。

次に、右の表「(2)計画値との比較」は、2023年度における第8期事業計画値と実績の比較となっています。計画値と比較して、高齢者人口は 98.50%、高齢化率はマイナス 0.49 ポイント、認定者は 97.89%であり、全体として、計画値を下回りました。

続きまして、2ページ目をご覧ください。項番2「総事業費」についてですが、この表は介護保険事業の総事業費について、2021年度から2023年度までの3ヶ年における計画値と実績値をサービス別に比較したものです。介護保険事業の総事業費はBの「標準給付費」とCの「地域支援事業費」からなっております。このうち、B「標準給付費」のイ「その他経費」には介護サービス費以外の高額介護サービス費や高額医療合算サービス費など、利用者負担の補助に関する経費が含まれております。

最上段Aの「総事業費」をご覧ください。2023年度計画値が381億7,779万6千円に対し、実績値は360億1,476万9千円で、計画値より約22億円下回りました。項目別に内訳を見ますと、①の要介護者を対象とする介護給付費と②の要支援者を対象とする予防給付費、イのその他経費、Cの地域支援事業費が、それぞれ計画値を下回っております。要因としましては、認定者数が計画値で想定した人数を下回ったことが考えられます。総事業費に対する執行率は3ヶ年ともに93%を上回っており、2020年度から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたと考えられる状況のなか、全体としては推計値との大きな乖離もなく、概ね計画の枠内で適正な保険給付を行うことができたと考えております。

最後に、3ページ目に標準給付費のサービス別の詳細を載せてありますので、参考にご覧ください。ご説明は以上です。

長田会長

ありがとうございます。ただいまの事務局からのご説明を受けまして、議題についての質疑のある委員は挙手をお願い申し上げます。特によろしゅうございますか。それでは次に移らせていただきます。

3 報告

(1)令和6年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金(介護保険インセンティブ交付金)の評価結果について

長田会長

報告の(1)といたしまして、令和6年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金(介護保険インセンティブ交付金)の評価結果について事務局からご説明をお願いします。

事務局

それでは、報告の(1)「令和6年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金(介護保険インセンティブ交付金)の評価結果について」、いきいき総務課の大島よりご説明いたします。

資料3「令和6年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金(介護保険インセンティブ交付金)の評価結果について」をご覧ください。

介護保険インセンティブ交付金とは、各市町村が介護保険の保険者としての機能を発揮し、高齢者の自立支援、重度化防止等に関する取組を推進するため、国が創設した交付金です。この交付金は目的別に 2 種類あり、「保険者機能強化推進交付金」と「介護保険保険者努力支援交付金」という2つの交付金があります。介護保険インセンティブ交付金とは、2つの交付金を総称した呼び方でございます。この交付金は、決まった額が交付されるのではなく、各市町村が行っている介護保険の取組について、国が評価を行い、評価結果に応じて交付額を決めるといった仕組みとなっています。本日は、この交付金について、昨年度の介護保険における町田市の取組みの評価結果が公表されましたので、ご報告をさせていただきます。

はじめに、資料の1ページをご覧ください。1ページに記載しているのは、「保険者機能強化推進交付金」の取組み結果です。「保険者機能強化推進交付金」では、4つの目標すべてにおいて、全国平均を上回る得点を獲得いたしました。内訳としては、「目標Ⅰ 持続可能な地域のあるべき姿をかたちにする」では、100 点満点のうち、全国平均は 56 点のなか、町田市は 82 点を獲得しました。続いて「目標Ⅱ 公正・公平な給付を行う体制を構築する」では、100 点満点のうち、全国平均は 60 点であり、町田市は 80 点を獲得しました。「目標Ⅲ 介護人材の確保その他のサービス提供基盤の整備を推進する」では、100 点満点のうち、全国平均は 41 点であり、町田市は 91 点を獲得しました。「目標Ⅳ 高齢者がその状況に応じて可能な限り自立した日常生活を営む」では、100 点満点のうち、全国平均は 49 点であり、町田市は 70 点を獲得しました。これらの結果、総合で 400 点満点のうち町田市では 323 点を獲得することができました。本交付金では、特に「介護保険事業の分析」や「介護人材の確保」の取組みが全国平均と比較し、大きく得点を獲得しております。これは、持続可能な介護保険制度の運営に向けて、介護保険認定率や給付費等についての全国、東京都、類似市等との比較分析を行ったことや、「町田市介護人材バンク」と協働で、介護人材の確保に取り組み、資格取得支援などを通じて、高校生などの若い世代の介護職員の確保を実現するなど、町田市の様々な取組みが評価されたものと考えております。

続いて、2ページをご覧ください。こちらは「介護保険保険者努力支援交付金」の取組み結果です。「介護保険保険者努力支援交付金」でも、「保険者機能強化推進交付金」と同様に、4つの目標すべてにおいて、全国平均を上回る得点を獲得いたしました。「目標Ⅰ 介護予防/日常生活支援を推進する」では、100 点満点のうち、全国平均は 52 点であり、町田市は 81 点を獲得いたしました。続いて「目標Ⅱ 認知症総合支援を推進する」では、100 点満点のうち、全国平均は 55 点であり、町田市は 70 点を獲得いたしました。「目標Ⅲ 在宅医療・在宅介護連携の体制を構築する」では、100 点満点のうち、全国平均は 62 点であり、町田市は 77 点を獲得いたしました。「目標Ⅳ 高齢者の状況に応じた自立した日常生活」では、100 点満点のうち、全国平均は 49 点であり、町田市は 70 点を獲得いたしました。こちらは 1 ページ目の保険者機能強化推進交付金と共通の項目となっています。これらの結果、総合で 400 点満点のうち町田市では 298 点を獲得することができました。本交付金においては、町田市の取組みのうち、介護予防の取組みが大きく評価

されており、「町田を元気にするトレーニング」を始めとして、介護予防につながる活動を行う高齢者の自主グループに対して、会の立ち上げや活動継続のための支援を行ったことや、「フレイルチェック会」の開催などの取組みが、この結果につながったと考えております。

3ページをご覧ください。こちらは、介護保険インセンティブ交付金全体における得点状況について、全国の自治体のうち、上位 20 位までの自治体を掲載したものでございます。町田市は介護保険インセンティブ交付金の得点として、合計 621 点を獲得し、全国 6 位の結果となりました。この結果、交付額として、約 1 億円を獲得することができました。

4ページをご覧ください。こちらは、介護保険インセンティブ交付金全体における得点状況の全国順位のうち、介護保険の第1号被保険者数が 10 万人以上の自治体で比較した表でございます。町田市は被保険者数が 10 万人以上の自治体の中で、全国 1 位の結果となりました。介護保険インセンティブ交付金の評価指標は、認定率の変化など人口規模の違いにより、指標への影響度合いが異なる性質があることもあり、他自治体と比較をする上では、一定規模以上の自治体間で比較することが適切となります。このため、被保険者数が 10 万人以上の自治体の中で、全国 1 位という結果は、全国の中でも町田市の介護保険の取組みは高く評価されているという結果になったと考えております。

以上、簡単ではございますが、介護保険インセンティブ交付金に関する評価結果について、ご報告とさせていただきます。

長田会長

ありがとうございます。ただいまの事務局からのご説明を受けまして、報告の(1)についての質疑のある委員は挙手をお願い申し上げます。

渡邊(和)委員

市民委員の渡邊でございます。2 ページの上の方に、介護予防の活動指標群のなかに「生活支援コーディネーター」というものがありますが、これがどのようなものなのか、またこの取組みについて町田市はどのような位置づけで行っているのか教えていただきたいです。併せて、評価点数が 0 点のものがありますが、この考え方について教えていただきたいです。

事務局

高齢者支援課の早出と申します。まず「生活支援コーディネーター」についてですが、町田市では市内 12 か所がございます高齢者支援センターに配置をしております。役割としては、高齢者の困りごとなどのニーズを把握し、地域で行われている生活支援の取組みの紹介や、生活上の困りごとを支え合うグループの立ち上げ支援等を担っております。また、市内全域の対応を検討する全域のコーディネート業務を外部に委託し、実施しております。

事務局

続けて評価点数の考え方について、いきいき総務課の島田よりご説明いたします。今回活動指標と呼ばれる項目の部分でいくつか 0 点となっている項目がございます。こちらの指標は、全国の自治体の中における順位で得点が決定される指標であり、具体的には全国の中で上位 1 割、上位 3 割、上位 5 割、上位 7 割のいずれかの順位に該当した場合、得点が得られるという仕組みとなっています。0 点の項目については、全国との比較のなかで上位 7 割に入らなかったため、0 点となったという状況でございます。説明は以上になります。

長田会長

いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。つまり 0 点というのは全国と比較して少ないということですね。他にいかがでしょうか。

- 叶内委員 町田市社会福祉協議会の叶内です。説明を聞きまして、この交付金がそれぞれの目標に対して、総合点が全国と比較して上回っているのかどうかという点を強調して説明されていたのがよくわかりました。そのような見方をしていくと、例えば全国平均から得点が少ない項目について、町田市として課題意識としていくのかどうかをお伺いしたいと思います。
- 事務局 いきいき総務課の島田よりお答えさせていただきます。頂きましたご質問は、全国平均より得点が低い取組みについて、町田市として伸ばしていく方針なのかどうかという趣旨と認識しております。今回、介護保険インセンティブ交付金について、全国と比較し町田市は高い得点を得ることができましたが、おっしゃる通り、全国平均より低い得点の項目もございます。その項目の中には、人口規模に影響される指標もあり、例えば人口規模が比較的小さい自治体が評価されやすいといった指標もございます。そのため、得点が低い部分について、取組みの質が低い、取組みの回数が少ないため得点が低いとは一概に言えない部分がございますので、これに関しては、それぞれの項目について、町田市として十分な取組みができていくのかどうか、それぞれ分析・検証を行い、施策を進めてまいりたいと考えております。
- 長田会長 よろしゅうございますか。前向きに進めていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。お願いいたします。
- 渡邊(和)委員 市民委員の渡邊です。先ほどの続きになりますが、私の個人的な考えですが、高齢者を見守るあるいは支援していくというときに、継続的に高齢者に対してどのような関わり方をしていくかということが非常に重要と考えています。例えばそういう視点でこの資料を見たときに、生活支援コーディネーターといった方が多くおられれば、非常に地域で頼りになりますので、町田市では12か所に配置ということですが、0点ということは、少ないということに違いはないので、こういう点をもっともっと強化していただければ地域の高齢者は助かると思います。これは要望です。
- 長田会長 先ほどの叶内委員のご意見と併せて、是非取組んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。他にいかがでしょうか。お願いいたします。
- 岡根委員 高齢者支援センター連絡会の岡根と申します。先ほどの説明のあった全国比較ではなく、取組み内容を評価されている部分もあるかと思いますが、どういった部分で評価されているのか、その詳細について公表などは可能なのでしょうか。
- 事務局 いきいき総務課の島田よりお答えさせていただきます。取組みの指標に関する詳細の内容につきましては、国の方で公表しているところでございます。ウェブ上で「令和6年度市町村保険者機能強化推進交付金及び市町村介護保険保険者努力支援交付金」を検索していただければ、各指標の詳細についてそれぞれご確認頂けるかと思います。
- 岡根委員 高齢者支援センター連絡会の岡根と申します。町田では、町プロという協議会において、医療・介護・行政の連携は活発な状態にあると思いますが、目指すべき目標値というのを、それぞれが認識することで、協力体制をさらに推進できるのではないかと思います。質問させていただきました、ありがとうございました。

長田会長

貴重なご意見ありがとうございました。他にいかがでしょうか。よろしゅうございますか。それでは次の報告に移らせていただきます。報告の(2)といたしまして、介護人材にかかる需給推計と介護人材確保に向けた取組みについて事務局からご説明をお願いします。

(2)介護人材にかかる需給推計と介護人材確保に向けた取組みについて

事務局

それでは、報告の(2)「介護人材にかかる需給推計と介護人材確保に向けた取組みについて」、いきいき総務課の大島よりご説明いたします。資料は、資料4「介護人材にかかる需給推計と介護人材確保に向けた取組みについて」をご覧ください。

2024年7月12日に厚生労働省は将来必要となる介護人材の将来推計である、「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」を公表しました。本日は、この将来推計に基づき、町田市における介護人材の充足状況を推計しましたのでご報告いたします。

まず初めに国全体での必要数ですが、2022年度には約215万人であった介護人材の必要数は増加していくと推計され、2026年度には約240万人、2040年度には約272万人の介護職員を確保する必要があると見込まれています。同様に東京都が行った推計では、2022年度の介護職員数は約181,700人、2026年度の必要数は約212,500人、2040年度の必要数は約258,200人の介護職員となりました。この結果、2026年度には約28,200人、2040年度には約73,500人の介護人材が都内で不足する見込みです。

この推計を町田市に当てはめたと、町田市においては、2026年度には約1,000人、2040年度には約2,700人の介護人材が不足する見込みとなりました。市といたしましては、中長期的な展望のもと、介護人材の更なる確保を目指し、各種研修や面接会等を引き続き開催することに加え、介護の仕事の魅力発信を行うほか、中核となる専門人材の育成・定着に重点的に取り組んでまいります。

簡単ではございますが、以上で介護人材にかかる需給推計と介護人材確保に向けた取組みについて、ご報告とさせていただきます。

長田会長

ありがとうございました。この町田市でもここ2年弱くらいで1,000人不足するということが、その後は十数年掛かって2,700人ほど不足するということが、緊急に介護人材の必要性が高まってくると、不足が見えてくるということでございます。いかがでしょうか。ご質問等ございますでしょうか。よろしゅうございますか。それでは、介護人材の養成、育成、確保ということを、是非町田市として取り組んでいただければと思います。

それでは、このほか全体を通して何かご意見などございますでしょうか。よろしゅうございますか。大変貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。本日の審議事項、報告事項は以上になります。それでは事務局の方にお返ししたいと思います。

4 事務局より

※事務局より事務連絡があった。

5 閉会

事務局

本日はこれをもって終了いたします。限られた時間ではございましたが、活発なご意見を賜り、本当にありがとうございました。